

MfG_J_saffron_art_tour_source_of_creation

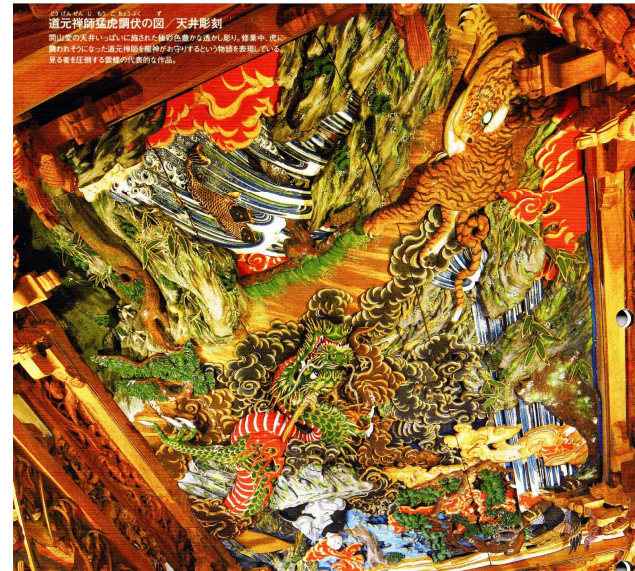


サフラン・アートツアー

サフラン酒アートツアー(2023)

1. 創作の根源 _001
2. サフラン酒の饅絵
3. サフラン酒の木彫・彫刻の話題
4. サフラン酒の建築の話題

1. 創作の根源



幕末の木彫りの名匠・石川雲蝶の手になる、見事な「仁王像、そして道元と猛虎の大彫刻」が魚沼・西福寺に納められました。(施主は方丈の大瀧和尚)

何のために作成されたか、という観点で考えますと……。

仁王様と仏法護持の大きな木彫の製作は、西福寺方丈の大瀧和尚による、洪水を鎮め、豪雪や冷夏にも苦しむ住民を慰めようという発願で、はじめられたと云われています。

機那サフラン酒の創業者、吉澤仁太郎は、この魚沼の西福寺を再三訪問したと伝えられています。もしかしたら仁太郎にも、大瀧和尚と同じ気持ちがあったのでは、ないでしょうか。

西福寺の大きな木彫を見て、仁太郎は、はたと気づいたと思うのです。

『みんなに楽しんでもらえるものを、作ってあげたい。』

今から百年前、長岡の片田舎で薬種製造を生業とした仁太郎さん、酒作りの繁忙期には、周辺の村人の手を借りざるを得なかったでしょう。村と一緒になければ、事業は成り立たない。そんな時代です。

冷夏や洪水に悩まされつつ、農業に精出す周辺住民に、日頃から世話になっている仁太郎さんも、はたと気づいたと思うのです。

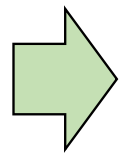
『みんな、いつも苦勞しているなあ。頑張ってるなあ。でも娯楽と云えるものは、なにひとつない。せめて、みんなが楽しめるようなものを、作ってあげたい。』



～ 共同体を守り、感謝する精神、今風にいえば、「町づくり、村づくりの心」かも知れません。

近隣住民の、当時の厳しい生活。
毎冬の豪雪
冷夏での不作、凶作
度重なる洪水

それらを片時でも忘れさせるような
娯楽もない。



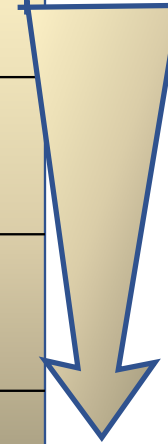
世話になっている近隣の住民に、
『鰻絵』で、励ましと元気づけをしたい。

娯楽、激励への喜び

驚き・美の堪能

謎解きの楽しさ

祈りと感謝の発見



サフラン酒では、まず『美』で驚かせ。
次に、ありとあらゆる『謎解き』満載。

それを解くと、『祈りと感謝』が見えてくる。

仁太郎ワールドの二面性

遊びと奉仕の テーマパーク

さまざまな守護神

「招福・魔除け、五穀豊穰、
商売繁盛、子孫繁栄」

「地域の安寧」

人々に日々の喜びを
もたらす祈り

祈りと感謝の テーマパーク

さまざまな結界

「四神・四霊と十二支」

薬師如来の「昇り龍・降り龍」

「薬師如来」への誓い

仁太郎の世界観、人生観

饅絵蔵の意匠の意図は

招福・魔除け	祈りと感謝
地域安寧	五穀豊穰

五行説・五大思想 世界の構成要素	十干十二支 農耕、勤労の奨励
空間の把握	時間・次元の把握
世界観	人生観

四神・四霊



十二支

“寺社装飾は、絵解きに価値がある”

「寺社の装飾彫刻」（日貿出版社2016）のなかの、
佐藤秀治さんの執筆の箇所、
「越後江戸彫り（源太郎、雲蝶）」の説明に、
～絵解きにこそ価値がある、という言葉がありました。

『鑑賞は一言でいえば「絵解き」である。
彫りは成形の手立てで副次的なもの。
優れた彫技のみに気を取られずに、
「絵解き」に参加してナンボという世界。』

サフラン酒の鰻絵も、「絵解き」だと思います。
私の鰻絵の絵解きの鑑賞法、説明の姿勢は
間違いではなかったという「お墨付き」を得た気持ちです。

西洋の宗教画にかぎらず、日本でも古典の物語に題材を得た絵
があるように、「絵解き」で楽しむ絵も多いと思います。

アートフル・サフラン

祈りと感謝、娯楽の提供を、サフラン酒の屋敷の中に盛り込んだとも見えます。

仁太郎さんの次から次へと繰り出す『謎解き』の難問に、全力で取り組むのも、サフラン酒を楽しむ方法のひとつです。

～ 仁太郎さんの、共同体を守り、感謝する精神が、時代を超え、観光客への娯楽の提供となったのです。